



雨宮会長

神奈川代協 新年会「新春の集い」

損害保険トータルプランナー授与式

神奈川代協(雨宮豊会長)は1月11日、横浜市のマリントワーホールで、損害保険トータルプランナー認定証授与式と新年会「新春の集い」を

開いた。同代協での今年度の損害保険トータルプランナー認定取得者は33名。授与式では、代協会員や保険会社社員などが認定取得者を祝した。

授与式に先立ち挨拶した同代協の雨宮会長は国内外での政治動向や経済動向の変化について「さまざまな事象が、私たちの社会や生活にどう影響をおよぼすのか不安な



認定取得者の皆さん

ものであり、それを取り扱う私たち代理店こそ、こうした不安の中で大きな役割を果たすべき存在だ」と代理店の存在意義を強調した。来賓者からは損保協会

南関東支部神奈川損保会の藤原啓人会長と日本代協の横山健一郎理事が挨拶。藤原氏は、多発する自然災害への保険会社と代理店の連携の必要性や

体整備を進めていかなければいけない」と呼びかけた。新たな損害保険トータルプランナーを代表して挨拶した筒井剛氏(筒井保険プランニング)は「トータルプランナーの資格を取得したことに終わらず、日々の募集活動を通してプランナーの名に恥じぬよう、そして資格を宝の持ち腐れにしないよう、努力していきたい」と抱負を語った。

横山氏は、昨年末にかけて金融庁が実施した代理店への実態調査について言及。今年2月には調査結果が公表される見通しだと述べたうえで、「私たちは、公表結果を踏まえたうえでさらなる体制整備を進めていかなければいけない」と呼びかけた。

その後、「新春の集い」に移り、参加者間で親睦を深めた。